

府中市健康地域づくり審議会  
第4回次世代創造分科会 報告書

- 1 日 時：平成25年10月25日（金） 13：30～15：00
- 2 場 所：府中市役所4階第2委員会室
- 3 出席者：谷 秀 樹（分科会会長） 板 橋 千代美（分科会副会長）  
吉 原 純（分科会委員） 平 地 緑（分科会委員）  
藤 井 敬 子（分科会委員） 宗 藤 正 典（分科会委員）  
寺 岡 暉（職権委員）

#### 4 概 要

- (1) 開 会
- (2) 分科会長あいさつ
- (3) 議事

①健康地域づくり審議会の指示事項に対する報告の取りまとめについて

#### ②質疑・意見交換

##### 【主な質疑、意見】

- 「社会全体で子育てを」という大きな温かい目を皆が持たないと難しい。男性を巻き込むのは絶対(条件)だ。子どもを育てるのは夫婦は勿論、社会のために社会で育てているという意識を皆が持つ。親だけの責任ではなく、親も育てていかなければいけない。育てていかなければいけない親が多い。保育所としては、子どもを育てながら親を育てていく事が、まず一番の課題だと思っている。
- 個々人の意識だと思うが、意識とは別で実際に時間を育児に費やしているかというところ、なかなか難しいところだ。
- 育児の負担を取れば子どもを増やそうという気持ちになるのか。それは又、別の要素なのか。保育園が充実して女性が働くことを支援しても実際(子どもの数は)増えていない。なぜか？意識だけなのか？
- 子育て支援をすればするほど母親が子育てに関わる時間や子どもとの関係づくりが薄くなっている。子育て支援は大切だが、子どもにとって母親は誰にも代えられないくらい大切な存在。子どもとの時間をとってしまっただけでは子どもも育っていない。親も親になりきれない。子育てのたいへんな部分は取り除かれるが、楽しさも無いし、結局忙しいばかり。煩わしさが楽しさに繋がっていかねばいけない。
- 根本的な意識を変えようとなるとなかなか難しい。資料に示されている方向性の根底に流れる全部に関わるところだと思う。

- 府中出身で都会で仕事をしている人たちにアンケートをしてみたい。仕事さえあれば帰ってきたいと思うかどうか、どういう条件があれば府中に帰って来やすいか。なかなか条件が合わずに都会で生活している人たちに調査をしてみて、不足部分をどうサポートすれば帰って来るのかを探る。府中出身の人に帰って来てもらう方が子どもを増やすには早い。男性の仕事さえあれば帰って来たいと思う人はいると思う。
- そういう所にスポットを当てて(他と)並行してやればいい。そういうのが調査をしてあるのであれば、婚姻のことも進めながら転入を増やすのは(取り組みが)すぐに出来る。前回の分科会で出たようにそれに対して補助とか特典を付けると帰りやすいところもある。就労の紹介等の窓口を作ることになっていたらかな？ワンストップの窓口を作って、帰って来られる人に就職情報等出すようにすればいい。
- 「帰って来たいけど仕事が無い」と言う人が多いがそこで話が終わってしまっている。そこが開けていけばどんどん開けていけるのではないかな。
- 暮らし方も変わってくるからそこにシフトしていく。都会にいとくらでも買物ができてお金を使うことに慣れているが、こっちはお金を使わなくても自分で(物を)作る時間ができる。
- やっぱり災害が少ないというのをアピールしたいと思う。台風が来ても、府中は台風が逃げていく、津波は絶対に来ないし、たまたまかもしれないが、過去何年も災害が無い事を数字で示す等、最高に売り出せると思う。
- 自分も若かったらもっと多く欲しかったと思うが年令的に2人が限界だった。若い時には子どもがこんなに面白いとは思ってなかった。仕事に夢中になっていて仕事が最高に面白いと思っていて、この面白さを上回る子どもだとは想像もつかなかった。友だちが子どもを産んで可愛がっていても、それが仕事を上回るくらいの楽しさとは気付かなかった。出産適齢期の働く女性は、子どもが仕事よりもっと面白い、ヘビーな部分もあるが最高に面白い存在で楽しい気持ちになるということを知らないのではないかな。出産の痛みとかお金がかかる等のネガティブな情報は入るが、子どもがどれだけ面白いかというのが入っていない。それを上回るものだということを知っていたら、計画的に出産できるのではないかな。
- 子育ての楽しさというのを知らせることが必要。しんどい、きつい等ばかりが表に出てきている。もっと楽しいと言う事を若い世代に教えていき、不安を取り除いたり意識の啓蒙を小さい時から社会全体でやっていかないといけない。
- 今の子育て夫婦にしてあげられることと、これから育っていく子どもたちに年令や段階に応じて、出来ることを整理して考えてみた。保育所の時には、まず母親との楽しい時間を持つこと。母親が子育てを楽しいと感じ、あなたが生まれてくれて良かったと愛情を受けて育っていかないといけない。
- 母親とかかわる機会を作っていくことが必要。

- 女性が中心になっている。女性の可能性、女性の生き方等、後は男性の育児参加くらい。支援はいろいろあるが根底はやっぱり意識。すぐには答えが出ないが長い間に意識を改革していかないといけない。取り巻く環境は経済的な問題や住宅の問題等ある。
- チャレンジできる場所、雇ってもらうのではなく起業しやすい街という感じ。東京などで自分で起業しようと思ってもなかなか難しいけど、こっちでは可能なことがある。
- 女性の可能性を活かせるかとあるが、女性の可能性だけなのか？この問題は女性だけの問題ではない。出会いの場の創出は、前回も出たが、「婚活」というのではなく、講習会であるとか勉強会などを通じてコンタクトが取れるようなものを企業ぐるみでやっていくという具体的な話が出たと思う。
- スポーツ大会などは(どうか)
- 今、男性の結婚志向が弱くなっているということが出たが、昨年、娘が結婚した。友達同士の男女が集まって遊んでいる中で、自分からアプローチしたと言う。男性が結婚する気がないからという考えは置いて、何かの出会いがあったら女性からアタックするケースが多いと聞いている。また、子どもについては早く欲しかったと言っていた。そういう子もいるんだという意識改革をして出会いの場を是非作ったらいいと思う。女性の親御さんから「どなたかいい人はいないか」と何人も言われる。結婚したい人はいる。
- 先日、企業の社員さんに若者同士で行事等をやれるようなことは出来ないかと聞いてみた。若者を集めることが力にもなるし出会いの場にもなるので工夫しながらやっていると言われていた。自分も何かやってみようかなと思っている。
- 本来、理想的なのは子育てに専念するのがいいのかもしれない。今までは「働きながら両立」ということだったが本当にそれが正解なのかわからない。そういうことを含めて支援策の改善ということだろう。
- 本当に子育てだけ出来るのなら、もう一回子どもをつくって3歳くらいまではずっと一緒にいる時期をやりたい。年令的なことも経済的なことも関係なく、仕事は夫にやらしてもらえばいい。子どもに集中できる期間が8年くらい欲しいと思う。そういうことも含めた支援策が必要。
- いろんなタイプがあるのではないかと。教職に付いている人が、最初の数年間はしばらく子育てに集中して、ある程度育ててから大学に復帰してステップアップしていく人もいるし、リアルタイムに仕事と子育てをする人もいる。こういうタイプでないといけないということはない。いろんなタイプがある。
- キャリアがある人はそれを継続していきながらということもあり、その人にふさわしい支援をしていく。それが女性の可能性を活かすことになる。男性もそうかもしれない。

- 現状として子育てや出産が“しんどいこと”“何かを犠牲にしないとできないこと”という社会全体の中での位置づけになっているが、「この時期は子育てに専念したい。生活のことも安心して子育てに専念したい。」そういう生き方を選べる社会の中で、出産育児のことが大事なものと皆が思えるように意識づけをしていきたい。
- 社会全体として子育てをしていこうと言う意味。出産は崇高といえれば崇高。そういう意識が今は社会的に少し落ちている。
- 崇高だからやるということではなく、社会にとって不可欠なことだ。ここでは家族の事が全然出てこない。例えば、子どもが病気になったとか、いろんなイベントがあるという時に年寄りがあると便利だ。留守番をしてもらったり、次の小さい子を見てもらったりすれば、お母さんは別の事が出来る。今、核家族になってしまって自分たちだけで子どもの面倒を見なければいけないということに捉われる。子育て支援は、社会からの子育て支援もあるが、家族としての支援も本当は自然な形であると思う。そこら辺がすっぽり抜け落ちているのではないかと思うが、どうだろうか。
- すごく関わりのある家族と、祖父母が働いていると子どもは見てもらえないことが多い。ごく普通に家庭で生活技術を身に付けた年令と、例えば、蚊取り線香も点けたことがないとか洗濯機を回したことがない等、家で教えてもらっていない世代が増えている。
- 祖父母に少しの時間でも見てもらえれば助かる。そういう身近な家族支援も考えていかないといけない。
- べったり祖父母に甘える人もいるから、祖父母も構えてしまう。毎日の送迎とか食事等でヘトヘトになっている祖父母がおられる。私も母に預けてここに来させてもらっているが、母がいてくれるから社会に関われる。こういう大人の話も時々自分の中に取り入れたい。その代り母が出かけたい時には私が送っていく。ギブ&テイクではなく自分の方がお願いすることは多いけど、確かに家族との支援のやり取りは大切。
- 叔父・叔母がしてもいいわけだが、身近な連携というものが助け合いの中にあってもいいのではないか。
- 祖父母が関われる人はもちろんそれも必要だ。以前の分科会で出たと思うが、身近な人からの支援になると思うが、“シルバー支援”というか、年配の方に見ていただける形にするというのも出ていた。
- シルバー支援は是非書いてもらいたい。地域づくりの中で今、高齢者問題が社会の中で言われているが、高齢者の中にも子育てを手伝っていける人もいる。社会構造の中にそういったものを取り込んで、子育てと高齢者の社会参加が相互に連携するような地域社会というものを、ぜひ府中市の地域づくりの中に書

きこんでおかれたらいい。議論していくと、社会が悪いから子どもができないみたいな意識に、だんだんとなってくるが、そうではなくて若い世代の活動として子どもができるわけだから、社会のために子どもをつくるとか社会が悪いからできないとかというのとはちょっと違うのではないかと思う。

- 元気なシルバーの人と、子育て中の母親の活動時間帯が同じ。私がよく行く所には、7、80代のお裁縫が得意なおばあちゃんがいて、保育所に上がるためのカバン等の生地を買っていくと一緒に作ってくれた。とてもありがたかった。それからは、栗をもらったら栗ご飯にして返すとかそんな感じで仲良くやっている。子どもにとっても家族以外で心が許せる人がいるというのは嬉しい。公民館と児童館が一緒になったような所が増えて、別々に活動するのではなくて一緒に、活動できればいいと思う。時々厳しいことを言われて傷つく母親もいるけど、その一言でちょっとがんばろうという気持ちになる。
- 女性だけではなく、Uターンしてきた人やシングルマザーの体験談等を座談会のような形でやってみるものいい。
- 女性に特定しない方がよい。出産・子育てすることを社会全体として支える仕組みは少し言葉を考えてほしい。住みやすい街づくりと情報発信の取り組みをしていくことで転入者を増やす。また窓口を明らかにして転入者を支援していく。ひとり親家庭も安心して子育てができる生活支援についても、本当に母子だけで住んでいるところは、高齢者による近い社会での支援が必要かもしれない。
- ご主人が早くに亡くなって一人で子ども2人を育てている家庭がある。そこは義母と同居しているが、義母は高齢で手がかかるので子どもを頼むことも出来ない。実家は遠く頼る所が無くて、日曜日の行事の時に、下の子どもを見てもらえる所が無い。日曜日は支援センターや一時保育の制度が無いから困っている。そういう時は預かっているが、頻繁になると相手も気を使う。日曜日に預ける所が無いというのが何とかならないのかと思う。子育て時代と介護時代が重なっている。両方を見ないといけないということ。
- 社会にそういう施設求めるのか、地域とか友だち同士のネットワークでお互いに支えあいを強めていくのか、預けられる子どもの心情も違う。知らない人や施設に預けられたら悲しい。
- 家族の絆とか地域の絆を強めるのもこういったケースの時に大切かもしれない。
- 地域によっては登録してもらい、お年寄り家族だけで住んでおられる方にちょっとだけ預かってもらうシステムある。預ける時はいつも同じ家庭へ預ける。その方たちも子どもが来てくれれば元気になれる。そういったシステムも考えてみるのもいいと思う。
- “ファミリーサポート”とか“すけっとや”というのがあるが、勇気がいる。

ファミリーサポートに登録している人が、例えば支援センターに時々おられて、顔を見たことがあるとか話したことがあるとかならいいが、面識が無い人に預けるのは、なかなか出来ない。

- 顔合わせをして、行く時は必ず同じ方に預けるという関係にしてあると聞いた。いいシステムだと思った。家族に頼まれたら(孫を)見てやるのが当たり前だけど、それが出来ない方もいらっしゃるので社会でしていくのも大切かなと思う。
- 窓口についてはこれまでの話の中にコンシェルジュとかいろいろあったが、具体的な業務というのはまだ決まっていないが、全般的な総合窓口を設けるように考えている。この分科会で協議をした中でも長期的なもの、すぐに始められるものがあると思うが、そういったところを取り組むように今、計画している。
- 仕事を辞めて転職したりする時に技術的なものを支援していくステップアップの講習についても窓口へ行ったらわかるようにしてほしい。
- 啓発については、出産適齢期についての意識改革が一番大切なところである。これをどういう形でやっていくかということになるが、市民全体で危機感を持って、フォーラム等をして意識づくりをしたらと思う。
- これまで一年、子育て・少子化について議論したが本当に難しい課題だと思う。もう20年近く少子化対策をやっているがなかなか難しい。外国では少子化が改善されているといっても、文化の違いがあるし同じようにはいかない。フランスでは婚外子(事実婚)を奨励しようということもあるが、それがいいのかどうかもわからない。日本の文化にふさわしい指標ができて子どもがふえてくれればと思う。

### ③その他、事務局から提案

- 平成24年8月に「子ども・子育て支援法」など子ども・子育て関連3法が成立し、平成27年度4月から制度移行が予定されている。新制度では、“自治体の実施主体”“社会全体で費用負担”“地方版子ども・子育て会議の設置”による質の高い幼児期の教育・保育の総合的な提供、保育の量的拡大・確保、地域の子育て支援の充実を目指している。府中市でも“府中版子ども・子育て会議”を設置し、潜在的ニーズの把握を含めたニーズ調査を行う予定で、その後に計画を策定することとなっている。市としては、この次世代分科会で議論していただいたご意見を含めて、市独自のものを盛り込んだものが出来るよう検討しているので、“府中版子ども・子育て会議”にこの次世代創造分科会を位置付け、引き続きご協議いただきたい。

### (4) 閉会 分科会副会長あいさつ